

屋島観光道路

昭和の初め、高松から屋島に至る道路は細く砂利道の志度街道しかありませんでした。地元の人々は屋島観光を盛り上げるため、内務省に対して道路改修を強く要望しました。経済不況という時代背景もあり、政府は景気対策を目的とした時局匡救（きょうきゅう）事業を行うため、昭和9年5月に高松に内務省の香川国道改良事務所を設置し、国道22号線（徳島～高松）のうち高松市内と屋島を結ぶ屋島観光道路の改良に着手しました。

当時、国道改良工事は測量から舗装工事まで単年度で実施されていました。昭和9年度には、高松市塩上町の塩上橋～木太村洲端の詰田川西詰間が施工され、御坊川には観光橋が架けられました（延長1,675m、道路幅は塩上橋～御坊川間が高松市都市計画に基づき歩道部2.5m、車道部10mの計15mで、御坊川より東は10m）。この工事では、四国で初めてコンクリート舗装が行われましたが、コンクリートの厚さは下層15cm、上層5cmの合計20cmでした。なお、塩上橋より西側は高松市によって工事が行われました。

昭和10年度には、詰田川橋西詰～木太村東浜の春日川橋東詰間（春日川橋を除く）の改良工事が行われ、詰田川橋が架けられました（延長1,250m、幅10m）。昭和11年度には、木太村東浜～屋島町西潟元間（春日川橋を含む）の改良工事が行われました（延長1,982m、幅10m）。昭和12年度には古高松村の口銭場川～牟礼村王墓間及び新川橋の改良工事が行われました（延長2,170m、幅10m）。昭和13年度には、観光道路の改良工事を王墓から牟礼村薬師堂まで延長し、改良工事が行われました（延長630m、幅10m）。こうして高松市塩上町から牟礼村薬師堂に至る約8kmの屋島観光道路は、5年の歳月を経て昭和14年5月に完成しました。

当時の国道改良工事は建設会社に工事を発注するのではなく、国が直営で行い、職員のほとんどは東京や神戸から高松に来ていました。また、工事は政府の失業救済の方針にしたがってできるだけ機械を使わずに、人力で行いました。昭和10年に完成した詰田川橋を65年後の平成12年に架け替えた時、詰田川橋の撤去工事に携わった技術者は、現在の構造物と比べて、たしかに材料は劣るが、現場練りのコンクリートは良質で、施工技術は高く、詰田川橋は非常に優れた構造物であったと思いますという感想を残しています。物が不足していた時代に、先人が丁寧な仕事ぶりで橋を築いていたことが想像されます。

<参考文献：国土交通省香川河川国道事務所編「道路グラフィティー観光道路はこうして作られたー」2001年、四国の建設のあゆみ編纂委員会編「四国の建設のあゆみ」1990年など>

